

分野	重点目標	自己評価			学校関係者評価	今後の改善方針
		具体的な取組	評価指標	達成状況		
学習指導	より高い目標を目指しながら、生徒の進路実現に向け、個に応じたきめ細かな指導を行う。	<ul style="list-style-type: none"> <li>シラバスを作成し、的確な指導と評価により、学習意欲の喚起を目指した授業の改善に努める。</li> <li>生徒自身の学習態度の自己点検・評価とともに、生徒による授業評価を実施し、授業に対する生徒の要望等を把握して指導方法の改善に努める（WEB回答の実験を一部のクラスで実施）。</li> <li>指導力の向上を目指し研修、互観授業を行う。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>授業の内容は理解しやすいと答えた生徒の割合を95%にする。(97%)A</li> <li>授業により力がついていると感じられると答えた生徒の割合を95%にする。(94%)A</li> </ul>	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>成績下位者に対しても手厚い指導をしていることを評価する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>評価の観点及び評価規準を記載した年間指導計画を作成・提示する。</li> <li>生徒による授業評価を複数回実施し、改善事項を共有する。</li> <li>教科内研修会による授業改善をさらに進める。</li> <li>互観授業の参加呼びかけの一層の徹底を図る。</li> </ul>
		<ul style="list-style-type: none"> <li>基礎基本事項の定着と、個々の進路指導に即した応用力の伸長を図る。</li> <li>習熟度に応じた指導方法、学習形態、課題の工夫に努める。</li> <li>観点別評価を実施し、授業の改善にも活用する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>基礎力確認調査2年(国語、数学β、英語)の平均正答率を90%にする。(85%)B</li> <li>課題の量・内容は適切であると答えた生徒の割合を85%にする。(87%)A</li> <li>板書、授業プリントなどの内容はよくまとまっていると答えた生徒の割合を95%にする。(96%)A</li> </ul>	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>盛岡一高スタイルのアクティブラーニングについて、取り組んでいる内容を中学校等に発進すること。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>成績下位者のつまずきを分析し、適切な支援を行い、基礎基本の確実な定着を図る。</li> <li>学年、担任、部顧問と連携して家庭学習時間の確保の取組を強化する。</li> <li>観点別評価導入1年目の結果を基にして、評価方法の見直しを図る。</li> </ul>
生徒指導	知・徳・体にバランスのとれた人間の育成、責任ある行動で正しい判断力と思いやりの心を持つ生徒の育成を図る。	<ul style="list-style-type: none"> <li>挨拶、交通ルールの遵守等、望ましい生活スタイルを積極的に確立させる。(交通安全指導・登校時生活指導[7回]、整容点検[5回])</li> <li>主体的な生徒会活動と時間の有効活用とともに活力に満ちた部活動の推進に努める。(運動会、スポーツ祭、白聖祭、予餞会の実施等)</li> <li>諸活動における生徒観察や定期面談やアンケート調査を通して、生徒の心身の状態を的確に把握し、適切な支援に努める。</li> <li>いじめ防止等の対策、情報モラル教育の取組を推進し、問題行動の未然防止に努める(いじめに関するアンケート[5回])。</li> <li>生徒指導の取り組みや、学校での生徒の活動についてホームページ等を利用して保護者へ情報を提供するとともに、協力体制をつくる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>自分によいところがあると答えた生徒の割合を80%にする。(74%)D</li> <li>高校生としてふさわしい服装やマナーを身に付けていると答えた生徒の割合を95%にする。(94%)A</li> <li>交通ルールを守る態度を身につけていると答えた生徒の割合を90%にする。(84%)B</li> <li>学校は、いじめなどの生徒の悩みや困りごとの相談によく対応していると答えた生徒の割合を95%にする。(94%)A</li> </ul>	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>学校、家庭が協力して子どもが自己肯定感を上げることが求められる。</li> <li>教員としてのみならず、人として生徒に接して指導していることを評価する。</li> <li>いじめなどについて、アンケート結果などを公表していることを評価する。</li> <li>生徒に学校生活を楽しいと感じさせながら接していることに感謝する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>面談、アンケート、学習の記録、行事等を活用して、生徒が自己肯定感を持てるように支援する。</li> <li>挨拶、交通マナー、情報モラル等の問題について更なる意識の向上を目指し、生徒会の委員会等を活用し、生徒の主体的な取組を推進する。</li> <li>行事や部活動など、様々な場面で生徒とともに過ごし生徒の状況を日常的に把握し、担任、学年、教育相談、部顧問、管理職等、学校全体として、いじめなどの早期発見、共有、解決を図る。</li> </ul>
進路指導	より高い目標を目指しながら、生徒の進路実現に向け、個に応じたきめ細かな指導を行う。	<ul style="list-style-type: none"> <li>SGH推進課等他の分掌と連携しながら実践的、体験的な活動を通して、生徒の進路意識を啓発する。(東北大学訪問[1年生]、大船渡病院訪問[1年生]、学年別進路講演会等)</li> <li>生徒一人ひとりの第一志望の実現を支えるべく担任面談、教科面談等を実施する面談回数を年6回設定する。</li> <li>学年、部顧問、他の分掌と連携を密にし、指導的立場に立つ生徒を育てる道筋を共有し、家庭との窓口が誰であっても一高の方針が正しく伝わる体制を築く。(学年進路合同会議 3年2回・1年3回・2年2回実施 + 3年進路担任検討会3回実施)</li> <li>3年生の平常課外・長期休業中の講習において、生徒自らの希望により講座を事前登録することで、主体的な学びの姿勢を意識させる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>学校は、生徒の個性を伸ばし、将来への希望を実現させようと努力していると答えた生徒の割合を95%にする。(92%)A</li> <li>進路指導を進める際、生徒、保護者と連絡を密にしていると答えた生徒の割合を85%にする。(88%)A</li> <li>生徒の実情を踏まえ、長期休業中の講習などを適切に実施していると答えた生徒の割合を90%にする。(90%)A</li> <li>国際化に重点を置く大学(SGU等)へ進学する生徒の数を80名以上にする。(3/13現在 53名)B</li> </ul>	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>難関大学に進学する生徒が多い中、人として謙虚な心を培う指導も行うこと。</li> <li>進路指導テクニックの一層の充実を期待する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>自らが学習計画を立て、それを達成していく過程を尊重し、時間管理の意識を高め、主体的な学びへの姿勢を育てるように今後も指導する。</li> <li>生徒の未来を大切に考え、SGU等の難関大学を目指す生徒の第一志望を面談等を通じて支えながら、まずは授業を通してその目標を目指すに十分な学力を身につけさせる。</li> <li>入試改革、大学改革等時代の変革の流れを見ながら、2021年度入試以降への対応において、常に本校における最善を模索し続ける。</li> </ul>
健康安全指導	健康・体力の保持・増進と疾病の予防及び保健・安全指導の充実を図る。	<ul style="list-style-type: none"> <li>校舎内外の清掃の徹底を図り、環境美化に努めながら落ち着いた潤いのある学習環境づくりを推進する。(大掃除の実施、年4回)</li> <li>学校安全体制を確立し、危機管理意識の醸成を図り、事故防止に万全を期する。(避難訓練1回、防災講話1回、盛岡市シェイクアウト参加、非常用装備[飲料水、非常食、毛布]の完備)</li> <li>保健講話等を通じて情報を提供し、意識の啓発を図る。(年10回)</li> <li>カウンセラーによるカウンセリングを実施する。(年間28回)</li> <li>生徒に関する定期的な情報交換会を設定し、職員相互の意思疎通を図る。(年4回)</li> <li>必要に応じて病院等関係機関との連携を図る。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>学校は、生徒が健康で健やかな体をはぐくむために積極的に取り組んでいると答えた生徒の割合を97%にする。(93%)A</li> <li>学校は清掃や美化が行き届いていると答えた生徒の割合を80%にする。(86%)A</li> </ul>	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>交通安全指導を一層充実させること。</li> <li>いじめについては、その対処法も指導する必要がある。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>生徒保健委員会の活動を中心に部活動、委員会との協働を模索し、全校での意識向上に繋げていく。</li> <li>多様なケースを想定した避難訓練を実施する。</li> <li>災害発生時における非常用備蓄品の適切な使用方法を周知する。</li> <li>保護者の理解と協力を得ながら、学校医、スクールカウンセラー等関係機関と連携を密にして、情報を共有する。</li> </ul>
その他	理想的なグローバル社会の実現に貢献する人材を育成するために社会課題に対する関心と深い教養に加え、コミュニケーション能力、問題解決能力等の国際的素養を身に付ける。	<ul style="list-style-type: none"> <li>1、2、3学年の総合学習をそれぞれSG課題研究Ⅰ、SG課題研究Ⅱ、SG課題研究Ⅲとして、3年間を通して課題研究に取り組みせ、学校をあげて探究的な学習を推進する。また、課題研究発表会を実施し、その成果を公開するとともに、生徒のコミュニケーション能力、情報発信力を向上させる。</li> <li>国際的な素養を身に付けさせるため、自ら連携先を開拓して行うフィールドワーク、外国人を交えたパネルディスカッション、GTEC受検、英語ディベート、海外におけるフィールドワーク等、多様なプログラムを開発、実施する。</li> <li>グローバル・リーダーの資質の涵養に資する講演会等を実施する。また他のSGH指定校との交流をはじめ、課題研究の成果を対外的に発信する機会を積極的に設ける。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>課題解決のための探究的な学習活動を好む生徒の割合70%以上にする。(70%)A。</li> <li>自主的に留学または海外研修に行く生徒数を30名以上にする。(30名)A</li> <li>CEFRのB1～B2レベルの生徒の割合を40%にする。(3学年で約12%)E</li> </ul>	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>成果発表会などについては、中学校側にも案内するなど広く広報して欲しい。</li> <li>社会に広く貢献できるグローバルな人材育成に努めること。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>予算措置がなくとも持続可能な課題研究Ⅰ、Ⅱのスタイルを確立し、指定期間満了後も学年団が一丸となって課題研究に取り組むことができるよう、課題研究の進め方に関するマニュアルを整備していく。</li> <li>グローバル課題の解決へ向けた行動を起こすところまでを見据え、課題研究のプログラムの一層の充実をはかる。</li> <li>主体的な学習の成果をいかに評価するかについては、ポートフォリオの導入なども含めた検討を進める</li> </ul>